



開卷百笑

上海圖書館藏

13
1818
1-2



門 遠 13
番 1818
卷 1-2

談洲樓馬馬大人評

開卷百笑

一名無事志有意

開卷百笑卷之上

立川談洲樓馬馬撰

歳且若水

淡海樓作

淡海樓

明治十九年



春、晴あけゆく、あけなみのゆく、雲いなきに、つらりて、むらさきた
たふらふ雲、れ細くたなびきたると、遠とほきのかくれもむらさき、うね
一夜いちやぬれ、はるをこし、つれなく、さかすかのあり、曉あけに、扇あふく、室むろせ
と、夢ゆめさふ、裏うら後ご居いのひとりものも、目をさすは、しつぬ、あはれんと
も、梅うめさげて、井い戸とを、さふ、いれ、れ、さう、ふも、き、そ、肉にく籠かごひ、が、う、あを
あひて、居いる、もの、たれ、は、梅うめ花はな、さ、う、池いけを、あ、う、の、春はるた、な、ま、い、ま

百笑

だまひもじんきたまふおれたま何さ夕ぐらあがはけけりの成
ふつて今うつかくせぐよ氷をあびる去年の春もつびたら
一年中風もひかぬおのもあびぬぬおれもあびいいとをたがふ
たすのたまかろさうらりあういふあふまお娘々も桶を
さけて来てふたりながる水をひびてさすつる人をほてあえ
ちよみさんちよみさんいじしたちよみさん福寿茶を賣ぶさく
漬めつけたあぶあおれがくんであうと桶へりおまじま
長生の女房三三人いふああおいふもくんでくちかく
たのんも波でめりささちちりき人もあどじん者れたまが



桶をさげていふああもたごふそいふおくれとく
をうそおいふいふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく

春興 神抄ひ

松友亭 邑綱作

多びも大黒初卯糸里より藤草地行人と福神仲間をさき
小行寿老人ハ福祿壽三人ころふあたつてよおぼせ
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく
いふああも娘々若いふああもたごふそいふおくれとく

で面白かりやとむじをうが 節を引飛井そのまへあが
 めつじく現のまい物外おえを奪るゝを道てくれとつづく
 おまの月たむきをのんでゐる大じくこゑひすま娘のなをい句
 ひはれがらじやかれまひのぐすねやよあてまをのみまきく
 めひをまじやむれし大まきをのむとや門に何をのまらや
 おれはけらいうとよまぬぬ軍はなり乃極をにらてたてを
 のみまきくはは兵天八何をのまれをそとたぐい竜まを
 極大のむいばといふ家之極をがたてて極とちまふまを
 めつじい事でもむじのかただこのまはす時よま公八何をのまら

おれはらふ敷をさる後をよらて新田をのみまきくまはこふ
 ちくのまをひつれらむくしたものでいふと、い何にまは
 産友をのまき、面辨髪の色を赤く能純子に羽織にまを
 のらまがまひちりのめんをまあすのおひしやまのまをさると
 えてらうぬのたびををれひいらは大ねせる小まらうをすげひ
 おぐりにまらくとまをさる者らまあれはれた極と
 ちらひまのまをまはらうまらちんうんだらう、まら
 ちらひまのまをまらうまらちんうんだらう、まら
 ちらひまのまをまらうまらちんうんだらう、まら

まきまんの流部をたゞのんがききあふくといきせり
まきちとまたたこ入をまきりん 是は紅皮まきあきんじよ
松のまきいんのあきただめてよまただらでつらよ 一ぶくあひやまよ
まきでござのまきあきけたをこ入でいとつぶくのめがとれやう
よるあきこふたものぞろろ 神あんまりよるのアイ
るまきりまきとれはつらまきまらとでたざりまき

歳暮 糸井市

淡海樓作

ある年たして浅草の市乃ちまきふをりこの松だけをまき
中へ小安物方ちりを上まき 一つも大黒松まきんをかて

まきくれあがらげよまき物を落くふれたはいまきでも
あんまりまきといはまきまき極方ふまきんぶんあまらびのまき
ことまたたの松だけ後者れ被物をせう写にいたしよのま
このうちにまがくてもまきくても敵後のはひいまきまき
まき色く乃形遠ひいござりまき極とまき咄が後極まきい
松あつじ、まき餅四七本もあきまきこれたれろまきといまき
こあきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

本此よりこの松がけ其方目利を以て是はどの役者といふ事なき
 とや煙しとの伴がこまろほたとあるをなしくまろて是れは本も
 名じち浅草市北谷小馬者くといふ程の紫色一高き
 頭扱白黒其人の。まじまじもあつてはつひちあつへい筋
 太く志は海の花はまけ物居るれくふ名を正しつゝも遠くハ
 そつらとすと指せばあつちやくく度事も感心つてつてハテ
 扱能も寛一そのふかくせうせ宛をヤ子細ハツイ正たしてハりく
 隈町は芝居小二十年程あつはしつゝ役者といふ面でもあし
 木戸番でもいたつてあつたつてイマそんから幕引クイ主候ゆひが

イエじて何はしてあつたがくやにあつはつたがくやにてハ何の役を勤
 た。イ居風呂を焚ておまはし

蓮牡丹

緑青人作

今昔本天徳江の寺にめぐり蓮の花が咲其花散た人の松
 ろろとて芝居群集して是をみるがやどの賑ひでも法を修る
 心を起し出家がたかかめんどうたかた花をまちつて寺をた
 りつてしたが大よと切戸口をまめて人を入らず且方うらまえても
 ところをりおから門前かごさまを供の女中二人が下男に何う
 さやくとせうき甚本一行ちとおたのみやませうき方からあつは

たよめでござりませう。いふやうな御座りませう。兼
 はしたどをばいん。終らざるまゝと。いふ寺に男。いふちつて
 志まはしたれいこまう。おしやと。かこのそび。多て右の次をとり
 をこんど女中が事。兵今。並れの花。いふ。あつのはい。よふ。ござり
 ませ。せめて其跡。なりと。いふ。人を。ねび。ませ。と。主人も。や。ませ。い。な
 少。取。次。よ。めて。下。さ。り。ませ。と。お。ま。い。が。い。遠。方。く。と。い。ふ。ま。い。な。か。こ
 だ。い。只。川。辺。で。ご。ざ。り。ませ。と。こ。れ。い。ち。う。た。の。志。た。が。花。が。さ。び。咲
 て。い。れ。ど。見。物。が。ら。つ。と。面。倒。だ。う。見。せ。る。事。と。お。ま。い。の。言。を。で
 こ。ざ。り。血。納。不。格。今。お。す。ひ。ま。る。を。遊。り。た。ん。せ。て。あ。り。に。成。ま。せ。ん

あ。い。外。の。あ。い。ぬ。其。人。斗。い。と。ん。せ。て。う。す。ま。の。ら。つ。と。白。又。も。ま。い。の
 い。ま。か。た。う。い。ま。あ。る。事。今。日。も。又。あ。ま。は。た。と。羅。漢。へ。く。い。く。ら。た
 極。蓮。を。見。物。に。た。へ。主人も。澤。々。ませ。と。い。ふ。あ。ま。あ。づ。じ。い。蓮。う
 り。あ。う。と。ま。い。づ。い。か。め。と。ご。ざ。り。は。た。が。今。日。勉。め。お。た。く。致。し。て。ま。い
 は。した。ど。を。ま。い。い。一。変。え。た。う。ま。う。た。早。く。も。て。帰。り。ま。い。い。と。い。ふ
 此。び。至。從。見。て。く。と。又。い。の。ち。く。る。目。も。ま。い。て。又。い。を。ね。む。と。い。ふ
 せ。ま。い。ま。う。ま。い。の。と。形。ハ。や。ん。だ。い。芝。口。の。町。人。に。後。家。で。ご。ざ。り
 ませ。う。ま。い。す。こ。に。中。丸。の。十。五。本。も。あ。り。て。今。い。ふ。端。の。石。橋。万。や。れ
 や。あ。り。の。際。居。し。て。あ。り。ませ。と。い。ふ。風。雅。く。い。ふ。と。ん。せ。う。い。ふ。ま。い

して見せしむと右の次方ををせむおせしきいて、テラエた
 物好^{ものよし}りて二日あるう九^こ杯^{ばい}でござりませ其^{その}上^{うへ}後^ご家^けを^を後^ご
 おぼりまきんかんあつるせりまことい女^に中^{ちゆう}の^の母^{はは}へ^へあ^あら^らむ
 和尚^{おしょう}も夜^よとあつたけあつたけ出^ですやと座^ざの障^{せう}子^しは^はだ^だ
 こらんまもまきまきつる意^いの方^{かた}女^にを^をま^まして誠^{まこと}連^{れん}の^の君^{きみ}
 子がゆんばの富^ふ貴^きなる物^{もの}といふいふくもつてもつぬぬぬぬ
 のやといふあじかき床^{あし}く障^{せう}子^しう^うのぞつてると後^ご家^けの^の奥^{おく}
 ぐ柳^{やなぎ}子^こ鼻^{はな}

直^{ちゆう}辰^{ちん}

金^{きん}銀^{ぎん}舎^{しゃ}
作^{さく}朱^{しゆ}他^た

共^{とも}六^む人^{にん}連^{れん}て^て冰^{ひやう}川^{せん}探^{たふ}ひ^ひ小^{せう}事^じ硯^{えん}蓋^{がい}が^がか^かと^と見^みゆ^ゆら^らく^くは
 ぶれ^ぶの^のと^と九^く草^{そう}不^ふ滿^{まん}降^{かう}黒^{くろ}い^い物^{もの}が^がく^く泣^なひ^ひの^のる^るや^やら^らか^から^ら也^やふ^ふなる
 した^{した}い^いく^くる^るあ^あな^なを^をト^トく^くハ^ハかん^{かん}の^のち^ちわ^わと^とう^うた^たり^り九^くち^ちく^くま^まぬ^ぬ
 ま^まの^のま^まを^をく^くと^と拍^ひ子^しを^をサ^サア^アは^はじ^じと^と並^{なら}じ^じの^のり^りに^に籠^{かご}る^る山^{さん}く^く
 か^から^らる^るよ^よう^うな^な洗^{せん}子^しだ^だい^いく^くが^があ^あら^らる^るま^まぬ^ぬく^くま^まぬ^ぬト^トま^まぬ^ぬト^ト
 く^くい^いま^まま^まは^はち^ちあ^あら^らま^まぬ^ぬく^くと^とま^まを^をく^くら^らあ^あ女^に房^{ぼう}が^が並^{なら}ず^ずと^と小^{せう}こ^こ
 お^おか^かま^まの^のく^くら^ら上^{じやう}座^ざに^に居^いる^る中^{ちゆう}ど^ど一^{いつ}は^はい^いく^くら^らだ^だあ^あれ^れは^は女^に下^げが^があ
 いら^{いら}る^るま^まつ^つけ^けよ^よあ^あれ^れに^にあ^あれ^れは^はせ^せり^りく^くび^びん^{びん}あ^あら^らま^まぬ^ぬく^くハ^ハま^ま下^げが^が
 動^{うご}て^てゆ^ゆら^らく^くと^との^の次^{つぎ}の^のあ^あつ^つと^とま^まぬ^ぬト^トは^は三^{さん}番^{ばん}め^めの^の紙^しを^をた^たき^きぬ

いろねだるねぞとを首がせしむるも下せぬくまらぬかあ
 とま列まゝも其次は耳のやぶか入まうらうらつちあといは
 さいひあかんじもすむでうやうそちうよくんあれいごあるとあ
 こくふまうくう文でま方よらんまりだ捨めめく捨めめく
 まけろいしをさうらめ女席もまわらまの女がもしあがら
 何の事とこぞうかまのつらぬとらにけつらつらぬはあ尻い
 ちがらうこめくでもまの終ちちと終よんえんをこくわの
 とらいせいの女が席下でまかばとんけお客をえたた
 とまらせん

以上

伊豆子別作

こち前物ありだがりま紙小以上と書きながらのいよめでござら
 ます。芝居上とハ上を認めてもなといふも人の位も上げ人を
 上といふもかみをさうてまるといふもかリアそれでは賢
 とあり

竹光

妙世亭 文好作

今いもかし神田迎を折助が酒ぶらうて千鳥足を子供がを奪
 てるまゝの申田舎がわらめと笑やを聞てびんだがぬあていぬ
 いろ酒をのませたおれがまたでおれがむむむいんあつたといふ

まゝんもまゝんはいお女女のりまゝいとまも何娘もまゝのこ
まゝんと脈光ふりりをうつとまゝいぬごう切事があるもの
怒りてえりくもあゝだうもせりるまとぬはば作光をれ
かれをれで切るおろりくと笑へ何うぬるとげを立てやも

まゝん酒

妻住翁作

西國の駒止橋のあたりに此人があるまゝりく六之河をに大考合
つてあゝまゝれむあゝものを大ざんりりてきたおれしはご
おれはまゝれゆしと親のちぶ六のあゝのあゝおれついでまゝ
でち講りりてまゝんもあゝたみ酒橋すおけ小一たゝある

こつらつりがたいまゝんよく長者三人連で外の宿せどもこの思
おるまゝれ様のうげでたのしりやとちつれ時に酒は下見と茶の湯に
まゝりて者まゝれいしやまゝりつひやまゝりかりのもまゝりせう
けんをまゝりてまゝりてつらまゝりつひをまゝりしたけんをまゝり
るがあるおれまゝんはまゝんも種た男だぞまゝりも且形光の
時とまゝりまゝんもまゝりも香つこゝろまゝんも三人折つあゝまゝり
まゝんもまゝりまゝりもまゝり九とせと辻番から通れ

大鼓

紅楓真 丹盛立作

つる地まゝれむすこ大鼓みまゝり晩けいこ世を長者の者まゝり

言よまゝいそぐ大はびの音、盤木うとどんで夜が移るまよ
大川の吹時をいぬ音に守れて小舟のと船より世を親
しひのりともる事とて止せらる。夫の住る所がまて若旦那
けいひをせはみをおちをりませぬ。どれは流るの音が、大は
まよ本の音にまらぐから止てられりと大屋のいのみ。まて何れを
さふもがいとくば、どれはまたが仕格うこざり申ととりかへば、
を縁に書て小刀をとりてやりぬくから、夫いふ小まると。こむ
是、家根の大は、見へつゝみのまゝいこれけむとて

けいひの所

十林真、
萬善作

今むじ娘のけい、いそぐ系比四十五の米やのよ代、何かれせをい
る時、ういそぐもあは、誰もけい、にこむも前も、たのふれた
多ういと女も娘の、いそぐ中、是をふい、つゝあちをい、
娘のまだと、いひのよをふ、り、い、も、大は、小兒も、つ、
け、里、風、い、ん、は、ら、き、れ、し、い、い、何、は、な、ま、ら、う、い、
かりて立てゆく母親の、い、是、里、風、い、ん、ま、い、お、か、
い、ま、ま、い、お、か、の、子、乃、親、づ、と、も、い、お、か、い、
の上、是、後、を、立、て、居、る、の、も、あ、の、子、を、相、
お、か、り、夫、小、娘、の、手、と、え、ち、ぐ、て、こ、
百六上

秘くもよしと云ふ人だ。まゝに申したくもあつたが、いふに
あまのつとまのまはたつた。だれか、いふにたてをまわつたの
のでも、いふと、まをまわつた。だれか、いふにたてをまわつたの
ら、いふにたてをまわつた。だれか、いふにたてをまわつたの
五十西の支度令ときよ

蛇ヘビ

義知丸作

是も今ハむじ。隅田川辺ノ摘草に行じた。下女のまもる人
蛇がまのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
やのい者。まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵

うちへびがまのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵

つとまのま

義知丸作

今ハむじかまのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵
まのほ大らんを入る。江戸ノ医者を呼ぶ。あつた。武蔵

寺まで行々に友だちがあんまり各いなりも少なくてあつたを喜ぶつれ
 ていてやむのをせめてやうこいつらあつくと相談して、こ徳まおの二三
 十にあらまを吉原をさへし事があるまいせめてらんおれどもあゆみせ
 隣さへ出ぬるのちゆりやと連立大門をさへしと女席の道中、つれが
 女席うてサモウ見せがごとと格子先へつれて行なせれんぐらしいゆだ
 一たんさあもてなる、何さつれが武家だうをさへしやん、とさあは酒
 肴に半膳めをさへしつた、いふて格ごうぐがにきびぢりめん、
 女席を拍で、武家よ、さあそれと武家と武家、眼にあつた、
 丹へうつてたいて、さあよ

大屋

月盛楼 紫園作

おまのほ子、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 けい、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 ます、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 ござん、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 若つて行をおれ、何ごとと云た、おまの、おまの、おまの、おまの、
 の、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 三、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、
 大屋、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、おまの、

湯いそふ

奥久作

のる夜(よ)の(よ)に(に)行(ゆ)く折(せ)が(ら)子(こ)僧(そう)出(で)て(て)且(かつ)形(かたち)ぬ(ぬ)ち(ち)夜(よ)食(じ)を(を)と(と)ら(ら)る(る)
と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)
と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)と(と)ら(ら)る(る)

○地口好

三樂作

今(いま)も(も)地(ぢ)口(ぐち)母(ぼ)の(の)侍(ざむらい)氏(うぢ)に(に)業(ごう)慢(まん)台(だい)を(を)居(い)る(る)又(また)地(ぢ)口(ぐち)を(を)好(この)む(む)
て(て)を(を)ん(ん)ま(ま)ま(ま)の(の)地(ぢ)口(ぐち)と(と)い(い)て(て)遊(あそ)ぶ(ぶ)を(を)好(この)む(む)
お(お)れ(れ)も(も)地(ぢ)口(ぐち)を(を)好(この)む(む)た(た)と(と)夜(よ)の(よ)中(ちゆう)に(に)遊(あそ)ぶ(ぶ)を(を)好(この)む(む)
先(ま)に(に)後(ご)に(に)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)

ち(ち)う(う)ち(ち)に(に)遊(あそ)ぶ(ぶ)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)
焼(や)く(く)が(が)人(ひと)が(が)お(お)も(も)の(の)は(は)ま(ま)も(も)と(と)う(う)り(り)ん(ん)た(た)ら(ら)低(ひ)な(な)の(の)ま(ま)に(に)夜(よ)
あ(あ)が(が)お(お)も(も)の(の)は(は)ま(ま)も(も)と(と)う(う)り(り)ん(ん)た(た)ら(ら)低(ひ)な(な)の(の)ま(ま)に(に)夜(よ)
二(に)列(れつ)で(で)い(い)る(る)母(ぼ)氏(うぢ)と(と)い(い)て(て)あ(あ)ひ(ひ)海(うみ)に(に)と(と)ま(ま)り(り)ん(ん)ま(ま)か(か)ら(ら)い(い)ん(ん)
の(の)も(も)ら(ら)る(る)夜(よ)の(よ)中(ちゆう)に(に)遊(あそ)ぶ(ぶ)を(を)好(この)む(む)を(を)好(この)む(む)
や(や)が(が)ら(ら)る(る)あ(あ)の(の)ま(ま)の(の)男(おとこ)だ(だ)と(と)い(い)て(て)あ(あ)ひ(ひ)海(うみ)に(に)と(と)ま(ま)り(り)ん(ん)ま(ま)か(か)ら(ら)い(い)ん(ん)
め(め)だ(だ)と(と)い(い)て(て)あ(あ)の(の)ま(ま)の(の)男(おとこ)だ(だ)と(と)い(い)て(て)あ(あ)ひ(ひ)海(うみ)に(に)と(と)ま(ま)り(り)ん(ん)ま(ま)か(か)ら(ら)い(い)ん(ん)

けた物

何見亭作

是(こゝ)今(いま)六(む)普(ふ)津(つ)川(がわ)に(に)出(で)が(が)や(や)ら(ら)安(やす)帝(てい)や(や)ど(ど)兒(こ)客(きやく)三(さん)人(にん)度(た)半(はん)行(ゆ)く(く)唐(たう)紙(し)

えみぢにたんの侍中君のまだら松杉の太木或は教をたを深き
 流子不血を持出 お座さんお猪さんお様さんおそとらやつて
 らんだ所さんえもいんがいあも血がまんて床まもるま三
 小用はちりてたてのちるるまふまひいあまちとさけし
 位るるごといりあやうりおたおれがあのもちうい首うむが
 といると深てむかり居るおれがきるるまふちりやもねま
 していらも申外もつあひいお様さんお肉うあるとまの
 さんごまひるまじりの子あつたまたらやめりあをま
 とんあつたお様さんあつたおにえおはしお祖さんお首

ちび一番に板取たれごい おとくさんとおうおさんご
 けい其ふたりのをよんで事て 茶の味きめて多りま
 帰りモシるるよごりやすおとくさんお竹屋に居つ
 した今お流をちりてあつた

名酒屋

攝作

今ハ昔源川の名酒やといふ事おがでたさまつ女
 もめんやの梅といふお味にやつたお今お田ま
 りたといふ隅田川のお味の見えはつたといふ
 ちりといふ源川のお味といふお味といふお味

いのも影川はむじんを遊にゆり申た

みぢり

及喃并作

今年はまうりにいづかありむを尖報やあ今でもぬかふもをま
町内の子供に色(二十人)ありたりたうもをまうりせりて
雀(う)かいらもえい物だ(雀)雀(う)りてい(雀)雀(う)頭(う)りてい
ま(う)い(う)を(雀)茶(う)餅(う)子(う)れ(う)い(う)の(雀)め(う)余(う)梅(う)を(雀)め(う)た(う)下(う)茶
れ(う)い(う)び(う)三(う)人(う)も(雀)え(う)り(う)たり(う)あり(う)せ(う)た(う)い(う)を(雀)梅(う)の(雀)天(う)本(う)か(う)して
唯(う)子(う)方(う)梅(う)け(う)花(う)差(う)て(う)の(雀)目(う)も(雀)せ(う)ん(う)か(う)した(う)本(う)花(う)や(雀)茶(う)餅(う)子(う)れ(う)
梅(う)子(う)本(う)を(雀)ま(う)ぶ(う)び(う)す(う)頭(う)が(雀)赤(う)色(う)や(雀)が(う)つ(う)て(う)ん(う)か(う)つ(う)て(う)い(う)や

とちりるをえそ(う)が(う)い(う)月(う)の(雀)い(う)の(雀)何(う)の(雀)ま(う)り(う)た(う)お(雀)福(う)助(う)

女前(う)の(雀)譽(う)

千(う)悪(う)作(う)

今(う)昔(う)昔(う)多(う)く(雀)遊(う)び(う)た(う)に(雀)女(う)前(う)此(う)譽(う)高(う)擧(う)る(う)あ(う)り(う)と(う)い(う)ひ(う)つ(う)ら(う)も(雀)も
聖(う)徳(う)あ(う)り(う)く(雀)あ(う)ら(う)に(雀)こ(雀)ま(う)不(う)快(う)で(雀)据(う)を(雀)引(う)き(う)ま(う)や(雀)が(う)式(う)を(雀)あ(う)り(う)ん
せ(う)り(う)く(う)と(う)い(う)天(う)門(う)直(う)り(う)く(雀)も(雀)中(う)今(う)宵(う)の(雀)若(う)さ(う)の(雀)今(う)が(雀)式(う)茶(う)餅(う)
ま(う)ぎ(う)ん(う)す(う)三(う)百(う)に(雀)ま(う)け(雀)松(う)之(う)前(う)じ(う)う(雀)ま(う)り(う)ん(う)の(雀)昔(う)よ(う)の(雀)い(う)つ(う)
あ(う)ん(う)と(う)の(雀)ま(う)き(雀)捧(う)組(う)さん(う)の(雀)よ(雀)お(う)す(う)か(雀)い(う)お(う)あ(う)ん(う)し(雀)ヨ(う)ウ(う)ス(う)チ(う)ウ(う)と(う)
ら(う)ん(う)ぞ(う)り(う)り(う)く(雀)し(雀)や(う)こ(雀)ら(う)ん(う)こ(雀)ら(う)ん(う)イ(う)駒(う)形(う)で(雀)お(う)す(う)ま(う)よ(雀)ゆ(う)た(う)で
あ(う)ら(う)ん(う)酒(う)を(雀)あ(う)ら(う)ん(う)ん(う)ど(う)も(雀)せ(う)ん(う)を(雀)あ(う)く(雀)あ(う)ら(う)ん

おやだんもあやうくはりのせん。ヨウス。くし。り。でも。移。る。中。お
書。も。た。と。と。ん。で。ぞ。お。あ。と。と。中。あ。う。と。と。か。じ。い。お
め。さ。ん。は。あ。と。あ。り。せん。

朱

始亭作

是も今もむじつき。ま。あ。れ。庄。治。が。花。で。仙。基。朱。の。伸。入。り。て
播。別。朱。の。方。へ。羨。濃。茶。が。娘。お。ま。を。嫁。に。中。り。不。び。い。く。懐
胎。して。あ。と。と。月。小。虫。ま。つ。き。中。の。糸。の。ま。を。さ。る。ま。人。後。ま。ま。ま
ら。升。取。ぞ。が。ま。ま。と。む。つ。じ。い。大。門。也。此。万。石。を。じ。と
は。儀。を。ま。み。ま。ら。通。に。く。り。も。ち。ぬ。る。と。腰。乃。の。た。り。を。三

三。た。け。だ。だ。の。拍。子。に。子。米。が。あ。ら。あ。く。い。子。米。た。と。れ。ハ。舞。ッ。ハ

白眼鏡

三七作

今。昔。に。あ。ら。の。會。を。催。角。力。は。と。く。東。西。に。立。こ。か。れ。土。儀。へ。あ。ら。ま
り。み。ら。ひ。笑。た。る。者。ハ。肩。と。行。夏。を。さ。た。め。ら。ぬ。ん。く。に。を。ら。る。
大。関。に。あ。り。東。大。目。玉。く。西。は。は。め。教。く。と。双。方。立。向。ひ。あ。め。ら
ま。ま。く。勝。負。へ。り。ぬ。水。を。の。ま。せ。り。ぬ。り。ひ。志。魚。を。つ。じ。て。あ。ら
め。て。居。る。と。だ。ん。く。目。玉。が。い。あ。ら。る。由。ハ。あ。方。は。開。き。も。手。を。造。て
目。を。と。ら。り。と。と。れ。ハ。見。物。う。う。こ。ま。り。ハ。な。ら。ぬ。秘。工。び。り。

原赤術

青奴作

こゝに比ぶるが長や中より此師匠にして来たおのやちもやいな
事があるめおでも移り習にありませう。おたの人中やすとつゝ先生
立出さるちかたごい別た。長也の者でござり申すごよをおして
下さるやせ。下地でもさねたちひあつたかまたおとやてらんといせ。
そのやうをおさるより不ふせん。まもぬ。それ何の役に
まづお月かたつてなすらあぬ。それどつた。アイ。何の役の時
是が長也のたまむとて。ア。先生。おちやまはた。おし。表
又裏をとんばむぐにうたす。吉やさんだつたら。ア。先生。表
おどろに表表る。こゝより申す。私におもてをりううにたやま

おもてはるよこより申す。なぜおもてはる。ア。おもてはる。こゝに
あつておめの人だ。

王中答

玄武真 亀樂作

今ハむし堀貫の井戸。その外を有。ある所。のむす。井戸をの流
つ。中。漢。ら所。で。とも。ある。ぬ。大海。に。ま。ん。く。と。け。行。令。流。
珠玉をつけたる樽門。下海月の門。昔おて何者。と。と。我。日本。此
者。こ。つ。ハ。つ。く。と。と。ハ。龍。宮。城。の。中。地。所。の。竜。王。此。所。耶。
引。ま。く。大。奥。の。つ。まり。せん。の。所。也。姫。ち。り。と。う。ん。あ。ひ。飯。の。局。を。先
さ。れ。ど。つ。ぞ。あ。の。ま。の。を。こ。が。く。が。後。に。志。ん。ひ。と。の。私。の。新。玉。を

此の浦寄の例もあれは早速聳に立ちあがりおのむまに竜宮
 は日本やと面白くあらんが岸のくまひて姫をとりお返し夕暮の
 相談をせぬがらんめいりては跡うらまふ先へけ玉は管絃
 らやとあるおむとの志のひもむせうにおよんで海辺にたれし
 くらまのしりぞくもあはすけつまつたて玉の管絃をるる
 おし蓋のわらひ候より集りたるを競をけぬ舞歎其外連を
 来りこつに居るとあつたあつた引立りてはあひし今こゝろ
 男は来せんとたつ

十軒店

明石月乳作

此の二月のまゝあるふたれをわめて去年の賣出の舞を
 いたすくうなるふたれ酒を上げていれ今の舞大蛇ふ舞はんと
 波乃うのあひせむむじでの女くまひ男たがをさの舞
 めにたれ舞のまじり舞はれとてさるるさるるだるる舞
 舞りたりと十軒店に下りゆがもてつたたれたれに
 大勢づれど舞店行こうふさんふあやたをう居るがま
 は戸の料理はるるるらまはひにさうせうつがもあつた
 系人形ともなるいざからびんたがらうふまよひの
 是らあまやがはとさうとく由途さうと盆甚小まはまの

どひてをそ、号りうがも、三三年に、ま店に、おたると
 号り、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 京人形共、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 酒、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、

釣り好

世事廣九作

源川の木場の辺に、心ざん、困泊を、して、うがも、うがも、
 男、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、

たの、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 く、女の、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 ます、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 其、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、

虎

馬車 百馬作

和、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 東、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、
 を、うがも、うがも、うがも、うがも、うがも、

吉原の女を色女席、刺染の書が外けをづけとさうのみか
 援言だよ
 木葉や、あそやうといふを母さうの虎をよぶ、あつた女
 席に、おんぐ虎を、うらまへのあめりにや、たびまるとまは
 ば、あそやうといふを母さうの虎をよぶ、あつた女
 席に、おんぐ虎を、うらまへのあめりにや、たびまるとまは

吉原

井庄

中てもやい、あつた女を色女席、刺染の書が外けをづけとさうのみか
 援言だよ
 木葉や、あそやうといふを母さうの虎をよぶ、あつた女
 席に、おんぐ虎を、うらまへのあめりにや、たびまるとまは

吉原

井庄

しま元がまかりすも益もすみ酒もあつたかの人と床へりぬが女も
 てのりあがりていんやにおめのかみかきくてもらひ使ひあちも名代
 のころ海さとの何さすのちめてよき人かゝ是も来てえんか
 さひ一友あがりてころれぬいせの新造元とあづてころあちもまお
 るのりあがりてころきてえんかまうふ又をまじりひもあるあ
 ちの裏ハイ度あつたむかじい人をさうす事さうといふ人モモ
 うひでこぼりあすといふ人とも帰りをさういふ人モモ
 してらると引止ぬハ眼の下へ指をおろしてエー

勘略の巻

曳尾亭 寺的作

孫の外おと母の夜出にきてどが勘略書にてころる髪もついで油
 がりて身系せんにせりこけて夏のうちへぐすてもそみ守り
 飯のさいふテ物それも飯に臥をとりてさくやてとんぐますのけ
 中へ今喰まじを片アワ一日お起すべしお世おんくお起おん
 中さふいおしぬ中ままおまういおますらうとくをとともおせ
 うまかへもまを九がりへついでこぼりてころせらうて周てしおれ
 ありまますおま妙きさくりてあれまます
 本舞様
 要賀作

十露盤

エトハ、あのれも十五にあが行燈をえんと眠る下雅へお習をさあれ

ところだんいご年が月くハ算をまゝいぢぬたをけつてアアアアと来てた
 いてらんち支十二万三千四百五十六七斗八升九合をれうらおしてえらん
 ちへらがうめ二天作の五、又もれたは是より沢をたぬれ二天
 他の上とハ上の玉をあめても九斗とつ玉を上れ玉を五斗といひ六斗を
 二にひるも五斗にひるも、五斗はあれたは玉をよりぬいアアアアといふはぬ
 玉を二やがれぬんとあれたは、あればしつぬんとあれたは、例走りの
 脚と

眼差

古今事

拙著作

今いご道有徳を商人を出入の道具とまりて且形を眼差のさぬ

てばいごちいごまきせぬとれんをさるせと目差をさきていご
 目差は揚穂録の麦葉葉に相時隊の故子やこ隅は河波の鳴
 戸形朝の豆がゆと、いごまきせぬとれんをさるせと目差をさきていご
 ござりますす、好たはせしりい並版いごやど、いごのお湯でハ五十四
 かい天気次第で相場ぐるひます。今一腰の服えハ、目差は揚穂
 衣隊ハ、衣隊ハ、源源ハ、狐を馬のせも、衣隊ハ、懸に穿たへ小柄を
 猫に判轄に月うらるから、危うさぐり小みそふち物あやが、いご
 月を月ひて、いごのいごふち、月をさるせと、いごの引、いごのいご

之坊

仙基

文時尾守作

女良愛の居つけに新造の荒を飼つるを、ちりかしの白荒だの
 近々、大ぶらある、ア、ア、ア、唯の荒で、いんす、いんす、いんす、
 りを、いんす、いんす、國に賊人家に荒と、え、え、え、え、え、え、
 へ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 秘あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 を、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、え、
 教ります

○ 富士講

芝樂亭 茲然成作

ぶら、推入、推入、推入、推入、推入、推入、推入、推入、推入、推入、
 むら、むら、むら、むら、むら、むら、むら、むら、むら、むら、むら、
 かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、かつ、
 い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、
 ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、
 こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、こ、

今昔の風

四角堂

治呂菴作

今昔妓女二人つりりるに妻の娘ありて妹ありての娘ありては
 くくらりる妻のけり外を湖東節の新文句の唄をかいて
 けり舟へ之を元落してあやまを母のりかれども其筆ゆへ
 にかすは夜夜夜にわたりも夜更に帰る事なくせられぬ
 のみとつるい実の娘を母といひてけりもあつたついで
 とくさる油師もあつたよまかさんかといふにむかひくそ
 りる物を、也あれが證據を携ていつとを演てくともほろ
 娘はひびきよもまふ田舎もまふ住よから、をまふむかひもまふ

欠落をとるま

星

鳥亭

龍馬作

是も今いむむむに虚言をつく者ぞ。どうたらつていひこく
 ある娘がこころはたぶん去年曹にさされく天竺よ
 正しんちんこころに面白かつらうぞんぢくいふことに是日
 市よ、子ちりちりもむいりまむいんう西がまら氷てあせるるる
 越へひねのるをりえにして湖やせもるる天竺川残えたの
 ちかへる星は六六んらうまぬふいば踏でせろいま、妻は女
 こころ七々のまあくく七曜九も夜むは星えたりてつる涙柳の

二二二

二二二

よき面のを何たと聞たし耳テ虫の志のよきハ後(あ)び言(こと)巴(よ)の侍(さむらい)大星(おほほし)又(また)せしけくあごと蠅(あ)を(あ)りる。あ(あ)の星(ほし)何(なん)と(と)す(す)た(た)ら(ら)れ(れ)い(い)と(と)び(び)こ(こ)た(た)の

化物

琴多楼

鹿兒善作

百お諸(もろ)のい(い)あ(あ)る(る)有(あ)り(り)人(ひと)化(ま)物(もの)大(おほ)勢(せい)つ(つ)ま(ま)中(ちゆう)に(に)も(も)入(い)り(り)入(い)り(り)て(て)い(い)る(る)ぞ(ぞ)も(も)尚(なほ)時(とき)に(に)づ(づ)れ(れ)も(も)あ(あ)ま(ま)い(い)多(た)く(く)秘(ひ)術(じゆつ)を(を)足(た)して(して)を(を)け(け)る(る)と(と)い(い)ふ(ふ)も(も)尚(なほ)時(とき)に(に)歌(うた)舞(ま)妓(ぎ)役(やく)者(者)ら(ら)と(と)い(い)ふ(ふ)も(も)い(い)ふ(ふ)は(は)岩(いわ)井(い)半(はん)四(よ)良(ら)と(と)い(い)ふ(ふ)人(ひと)して(して)七(なな)化(ま)を(を)ま(ま)る(る)は(は)是(こゝ)に(に)あ(あ)る(る)と(と)い(い)ふ(ふ)は(は)一(ひと)つ(つ)眼(まなこ)と(と)海(うみ)童(どう)ら(ら)其(その)芝(しば)居(い)と(と)い(い)ふ(ふ)と(と)猫(ねこ)ま(ま)し(し)に(に)ま(ま)く(く)ま(ま)る(る)岩(いわ)沢(たけ)つ(つ)か(か)ら(ら)岳(たけ)谷(や)川(が)川(が)

横(よこ)へ(へ)入(い)り(り)取(と)り(り)取(と)り(り)行(ゆ)く(く)と(と)虎(こ)や(や)と(と)い(い)言(こと)葉(は)子(こ)や(や)の(の)莖(こゝろ)籠(かご)ら(ら)ん(ん)で(で)ら(ら)角(かく)か(か)ら(ら)右(みぎ)を(を)ら(ら)ん(ん)と(と)芝(しば)居(い)の(の)着(き)物(もの)板(いた)ら(ら)る(る)で(で)小(こ)夜(よ)や(や)か(か)も(も)す(す)が(が)網(あ)み(み)箱(はこ)の(の)あ(あ)が(が)ま(ま)ね(ね)ら(ら)つ(つ)て(て)ぐ(ぐ)さ(さ)く(く)か(か)し(し)あ(あ)る(る)え(え)の(の)化(ま)物(もの)と(と)い(い)ふ(ふ)た(た)ら(ら)ん(ん)も(も)う(う)と(と)う(う)も(も)い(い)ふ(ふ)杖(つゑ)を(を)ま(ま)や(や)ら(ら)る(る)に(に)は(は)れ(れ)バ(バ)ツ(ツ)ま(ま)る(る)こ(こ)に(に)や(や)が(が)す(す)を(を)鼻(はな)の下(した)で(で)結(むす)び(び)も(も)入(い)ら(ら)れ(れ)る(る)海(うみ)や(や)初(はつ)中(ちゆう)村(むら)の(の)前(まへ)の(の)木(き)戸(と)を(を)え(え)る(る)と(と)い(い)ふ(ふ)ら(ら)芝(しば)居(い)者(者)が(が)い(い)ら(ら)か(か)ら(ら)ま(ま)か(か)つ(つ)た(た)ら(ら)ん(ん)ハ(ハ)化(ま)物(もの)あ(あ)ま(ま)や(や)ら(ら)れ(れ)つ(つ)た(た)ら(ら)ん(ん)も(も)

小こが

五明作

年(とし)よ(よ)す(す)ん(ん)に(に)あ(あ)ひ(ひ)つ(つ)た(た)依(よ)柱(むす)言(こと)忠(ちゆう)臣(しん)花(はな)が(が)あ(あ)り(り)と(と)い(い)ふ(ふ)に(に)は(は)ん(ん)金(かね)を(を)中(ちゆう)に(に)あ(あ)ん(ん)ま(ま)の(の)腕(うで)伯(はく)老(らう)ら(ら)る(る)で(で)あ(あ)る(る)本(ほん)花(はな)の(の)役(やく)せ(せ)ら(ら)る(る)の(の)あ(あ)れ(れ)ぬ(ぬ)所(ところ)

48
1643

1644

百三十一

ナユ

澤るりてとく方々皇も^マ陸をつ^チのめれ^キも^チひ^キが^ルも^ルぬり
 らぬ^キを^キた^キる^キも^ルひ^キの^キさ^キし^キ用^キを^キび^キ兒^キる^キ此^キ陸^キを^キた^キる^キ
 ふ^キす^キぬ^キい^キふ^キあ^キげ^キば^キ津^キろ^キう^キを^キか^キら^キる^キ目^キに^キぞ^キも^キ身^キが^キて^キぬ^キぬ^キぬ^キ
 つ^キいて^キた^キぞ^キい^キふ^キた^キぞ^キを^キさ^キし^キ陸^キの^キ腹^キ口^キか^キし^キん^キん^キい^キま^キが^キ
 養^キう^キると^キい^キふ^キも^キて^キい^キふ^キも^キた^キら^キぬ^キ



